

保健だより



【2・3年学校保健委員会の特集です】

平成28年12月15日発行

3年
学校保健委員会

かけがえのない「命」を大切にしよう

11/24



講師：市川中保健センター 保健師 浅岡美由紀さん 浅岡智子さん

前半は、「保健師とは何をする人?」、「保健センターってどこにある?」という話から始まり、妊娠・出産、避妊の話。後半は、クイズ形式で、出産から中絶、性感染症の話まで。「命」を大切にしてほしいという思いが伝わるお話でした。



感想



赤ちゃん訪問の話などを聞いて、自分たちはたくさんの人に愛情をかけられて育ったことが分かった。

何かあったら、相談するということも、命を守る一つの方法だと思った。

新しい命を授かることの重さを感じた。自分の命や体もちろん大切だけれど、新しい命も同じように大切だから、責任をもって育児ができるようになるまでは、慎重な行動をしようと思った。新しい命を大切にできる準備が整ってから行為に至るべきだと改めて確認できた。健康で綺麗な体や環境は、大切にすべきだと思った。

性感染症は、自分には関係ないと思っていたけど、しっかり考えることが大切だと思った。

子どもをつくり育てるために必要なものは、「心」「体」「お金」「環境」の4つが大切。この4つがちゃんとできたから、今の自分がいるのだと思い、家族へしっかり感謝して、これからも命を大切に生きていきたいと思う。

一人一人が、両親から授かった命を大切に、間違っても、自分から命を捨てたりしないように、むやみに人を傷つけることが無いようにすべきだと感じた。

「いのちの始まり～生まれる」までのDVDを視聴した後、命の番人である「助産師の豊島美和さん」から、産婦人科の現場の話を交えて「命について」語っていただきました。

奇跡のような確率で受精して、「命」が始まります。受精卵は針の先で突いたくらいの大きさ(0.2mm)です。



講師：助産師 豊島美和さん

妊娠中は、普段より10kgぐらい体重が増えます。体が重くなるだけでなく足元が見づらく、階段を降りるのも大変。寝たり、体を起こしたりするのも大変です。



お腹の中の赤ちゃん(胎児)は、羊水で守られています。

受精卵に見立てた卵は、水の中では、割れませんでした！



妊婦体験。「重い！」

感想

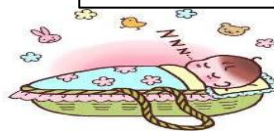


$1/300 \times 1/2 \text{億} \times 9/10$
そんなすごい確率で生まれてきたことに奇跡を感じました。

卵の実験では、羊水があると無しでは、全然違って、羊水のすごさを感じた。

辛くて苦しい思いをするのは、母親である産む側だと思っていたけど、赤ちゃんもそんな思いを抱え、共に戦っているのだということを知り、感動しました。私も体験しているのに覚えていない。不思議も感じた。

体験をさせていただいたが、思ったよりずいぶん重く、立ったり座ったりはもちろん、起き上がることも、大変だった。あれで仕事するのは、相当辛い。自分の母は、3人も産んだので想像しただけでも大変だったと思う。男なのであまり分からないが、できるだけ支えてあげられる人になりたい。



命の番人である「助産師」は素晴らしいと感じた。

私が、生命の誕生を学んだのは、小学校の理科と中学校の保健体育でしかなかったもので、DVDや助産師さんのお話で、初めてというほど、「命の尊さ」を強く感じた。母という仕事は、言葉では表せないくらい大変で、命さえもかけている気がします。私は、よく、母に反抗してしまうけど、一人しかいない私の母が私の命を育ててくれた重みを受け止めて、言動を改めようと思った。私も、将来、「母」という仕事をしてみたいです。